

市立病院だより令和5年1月18日 第66号

ページID : 0022439 更新日 : 2023年10月26日更新

▶ ページ内目次

令和4年度より、「市立病院だより」はホームページ上に随時、発行することとしました。

令和5年1月18日 R4年度 感染対策委員会の活動紹介

感染対策委員会の発足は、平成4年の見附市立成人病センター病院
(現 見附市立病院)開設時からです。

平成3年当時、東大病院で起きた院内感染による死亡事例が発端となり、
「院内感染」が社会問題として取り上げられた時期と当院開院の時期が
近いこともあり、開院当初から感染対策には力を入れて取り組んできました。

開院当初は、メチシリン耐性ブドウ球菌（以下、Mrsa）対策を中心とし
た活動が行われました。

やがて、Mrsaに有効な薬剤が開発され、Mrsa感染症で命を落とすこと
は少なくなってきました。

しかし、近年、新たな耐性菌の出現や医療の高度化に伴い感染対策の
重要性が増してきました。

そのような時代背景もあり、厚生労働省医政局長名発平成18年6月21日
付けで公布された、「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療
法等の一部を改正する法律」により、医療法の一部が改正され、平成19
年4月1日より施行されました。

この法律の中身は、医療の安全を確保するために医療機関の管理者が行う
べきことが定義された法律です。

院内感染対策も柱の一つとして設置が義務化されました。

これまでと大きく変わった点は、感染対策委員会のメンバーとして病院長
をトップに主要部署の責任者が委員会メンバーとして参加することが明文
化されたことです。

当院における、感染対策活動をより積極的に進めるために活動部隊として

感染対策チーム（以下、ICT）を編成し、感染管理室が設置されました。感染管理室の人員構成は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の4職種で協力し合い活動を行っています。

また、10年前より長岡赤十字病院を中核病院として近隣5病院で年4回開催の感染対策合同カンファレンスにICTメンバーが参加し、感染対策のさらなる向上をはかっています。

感染対策委員会の主な活動は、

- 1.週1回の環境感染ラウンド
- 2.耐性菌サーベイランス
- 3.年3回の職員研修の実施
- 4.抗生剤の適正使用の推進
- 5.感染発生状況の情報収集や問題に対する対策立案及び実施
- 6.毎月の定例会議及び必要に応じ臨時の会議

です。

近年は、新型コロナウイルス感染症対策に追われている日々が続いています。

患者様が安心して医療を受けることができるように、感染対策の側面から活動している委員会です。



委員会活動の様子

令和5年1月18日 R4年度 緩和ケア診療チームの活動紹介

当院は見附地域の終末期診療を担当する側面もあり、悪性腫瘍の終末期の患者様の診療を担当させていただくこともあります。

住み慣れた地域で自分らしい最期を迎えることができるように医療者として当院がお手伝いできることを、患者様ご本人様とご家族様と話し合いながら診療にあたっています。

入院中の終末期患者様を中心に、外来患者様の一部も対象に、緩和ケアチームが介入しながら方針を決定しています。

医師や看護師はもちろん、理学療法士や言語聴覚士、薬剤師や栄養士、地域医療連携室スタッフもチームに含まれ、総合的に多面的に患者様を取り巻く環境、心情なども含めてサポートの方法を話し合い実践しています。

当院には常勤の緩和ケア認定看護師が在籍しており、当チームの中心的存在として適宜院内の勉強会を主導しています。

11月には活動報告を含めた勉強会も開催され、今後さらに充実した緩和ケア診療を行うための目標を再確認しました。

地域の皆様に寄り添ったサービスとして還元できるように今後もより発展的に活動していきたいと思いをします。

委員会概要

【構成スタッフ】委員長	野尻医師
副委員長	立川認定看護師
構成委員	外来 1階病棟 2階病棟 薬剤 栄養 リハ

【開催日時】会議 毎月第3水曜日
(対象患者のケア等の報告・検討)
ラウンド 毎月第2金曜日 午後



緩和ケア回診について

まずは月1回（第2金曜）、会議より前に回診を実施

- 患者の顔が見えれば介入しやすい
- 認定Nの視線が直挿入することで課題を抽出しやすい
- 病棟からの相談を受けやすい

病棟で困ることがあればお声掛けください

病院内ではマスクを着用ください。